

少しでも、おかしいと思ったら ちよつと待った!

1人で悩まず、すぐ相談を!!

だまされるのは高齢者だけじゃない。



凶悪犯罪増加の一方で詐欺事件も横行

若者がSNS上の「闇バイト」に応募して犯行に加担し、一般住宅等において多額の現金や貴金属等を奪い取る事件が連続して発生。ほかに、「無差別殺傷事件」「児童虐待」「ストーカー殺人」「サイバー犯罪」等々、日本の治安が悪くなったと感じる国民が多いのではないかと。凶悪犯罪の増加の要因は複雑で様々な要素が絡み合っており、特効

薬のような対策は存在しないが、他方で適切な対策が今ほど望まれている時期もない。コロナの5類移行にともない強盗やひったくりも増加しているという。犯罪のない住みよい社会を求めて、幼少より思いやりの心と道徳、倫理、法律等の社会のルールを守ろうとする意識を徐々に育て、非行に走る一因ともなる児童虐待や配偶者からの暴力(ドメスティック・バイオレンス)の防止を図る必要がある。安全で安心できる社会の実現のためには、地域社会の絆の復活と社会環境の整備も重要であり、社会全体がお互いの垣根を越えて一致協力し、知恵を出し合いながら、凶悪犯罪を防止する努力を続けていくことが肝要だ。

一方、依然として高齢者の不安を言葉巧みにあおり大切な財産を狙う悪質商法があとを絶たない。誰もがその危険を知っていても、敵は組織ぐるみで次々と新たな手口を仕掛けてくる。「オレオレ詐欺」「振り込め詐欺」等々、「私は大丈夫」と思っている人がだまされるという。電話や訪問だけでなく、最近ではメールやインターネットによる特殊詐欺事件も横行。子どもからお年寄りまで所持するスマホに、本物か偽物か見分けることができない迷惑メールが日常的に送られてくる。パソコンやスマホの普及とともに便利な世の中になった反面、投資詐欺やロマンス詐欺など被害も高額で住み辛い社会になった。被害にあわないために、偽の情報にだまされないよう注意が必要だが、少しでも「おかしい」と思ったら、1人で悩まず身近な人や相談窓口へ「すぐ相談」と、消費者センターが呼びかけている。